

京都府が京都市内以外へ修学旅行生を誘導

京都には毎年70万人前後の修学旅行生が訪れている。以前は100万人という年もあったが、少子化の影響は大きく、現在は70万人と低下した。それでも、日本では中学生の都道府県別行き先ランキングでは、永年1位を誇っている。ところが、京都市内以外の京都府各地域を訪れる修学旅行生は全体の2%以下にとどまり、京都市内とそれ以外の地域との格差が非常に大きいのが現状だ。京都府では、京都市内以外の京都府内の地域への修学旅行生の誘導をすすめる事業を

京都駅での修学旅行生歓迎風景



和束町でのお茶農家宿泊体験

本格的に開始する。京都府内には、自然豊かな地域が多く残っており、農家への民泊や平和への学習、留学生との交流など、従来の神社仏閣中心の修学旅行とは一線を画した独自の強い修学旅行の開発に力を入れていく方針だ。

〈解説〉2025年の大阪万博の開催に併せ、大阪を訪れる修学旅行生に京都に来てもらうチャンスだとして、京都府は今年度に関連経費を予算に計上した。京都府内に点在する学習素材の活用を図る。具体的には、和束町での農家民泊による茶摘み体験や、舞鶴市での引揚記念館でのシベリア抑留や引揚の史実を通じた平和学習などだ。他にも、山陰海岸ジオパ

ークや京都府内河川での環境学習が候補になる。実際には、修学旅行を担当する旅行代理店や学校関係者向けの視察旅行も開催する。課題は、言わずもがな、宿泊施設が少ないこと。修学旅行生の受け入れには、数百名規模の生徒が泊まれる部屋数や設備が必要だが、京都市内を除くと非常に乏しい。京都市内以外の宿泊施設数は、全体の3割にも満たないので、まずは京都市内に宿泊し、日帰りでの来訪になる。そうすると、移動手段の確保が重要になる。アクセスのいい立地ならいざしらず、自然環境が素晴らしい場所ほどアクセスに

舞鶴引揚記念館での学習旅行



山陰海岸ジオパーク

時間がかかることが多い。2泊3日のうち、京都市内で1泊、京都府域内で1泊というのが理想かもしれないが、果たしてこのプランで調整が可能か。京都府域へ修学旅行生を誘導すると、市内の修学旅行生を対象にビジネスを営む事業者とパイの取り合いになるが、ここは京都市と京都府で痛み分けを許容しないといけない。大人の都合で妙な対立が起こると、人生で一度しかない貴重な修学旅行の思い出に、マイナスのイメージを与えることにもなりかねない。いまのところ、京都市と京都府との対立は生まれていないようだ。